

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 海道小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	44人	算数	44人	理科	44人
第5学年	国語	37人	算数	37人	理科	37人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

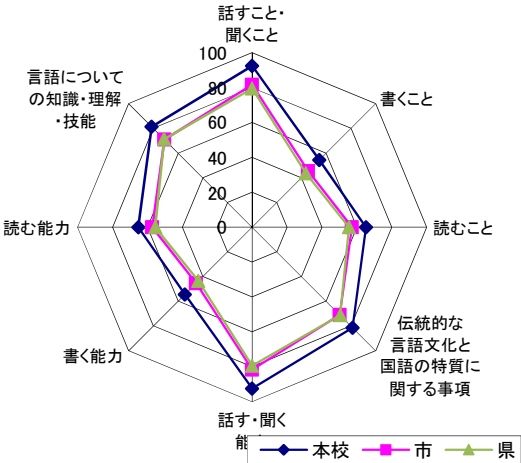
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立海道小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	92.4	81.6	79.4
	書くこと	54.5	45.4	43.6
	読むこと	65.2	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	81.4	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	92.4	81.6	79.4
	書く能力	54.5	45.4	43.6
	読む能力	65.2	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	81.4	71.1	71.4



★指導の工夫と改善

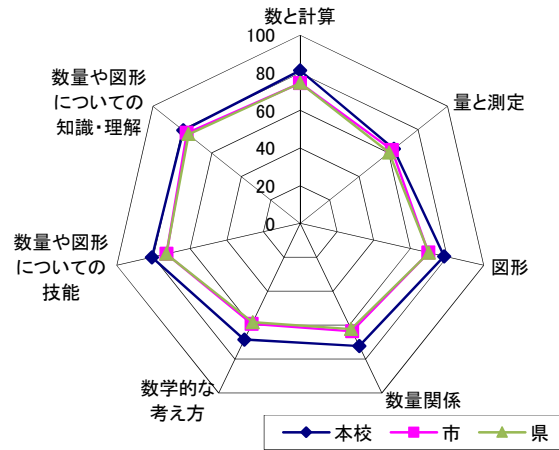
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は県と比べて13ポイント高く、どの内容も県や市を上回っている。 ○話し合いにおいて司会者の役割を理解し、進行したり発言を整理したりすることができている。学校全体で学級活動を中心にして各教科で話し合い活動を推進している成果であると考えられる。	・今後も授業の中に話し合い学習を意図的に取り入れ、話し合いのルールの徹底を図る。また、意見の根拠を明確にして話す習慣や友だちの意見を正確に聞く習慣が身に付くようにする。 ・学級活動などにおいて、できるだけ多くの児童が司会の役目を行う機会を増やし、話し合いを進められるようにする。
書くこと	平均正答率は県と比べて10.9ポイント高く、どの内容も県や市を上回っている。 ○本校児童の書くことの正答率は、県・市の平均正答率を上回っている。特に、文章構成を意識して報告レポートを書く問題については、よく理解できている。 ●メモや友達の意見を基に、報告レポートに適切な内容を書く問題については、正答率が43.2ポイントと低く、無回答も11.4ポイントあった。記述式の活用問題に課題が見られる。	・今後も、国語科を中心に記述する内容の構成を考えて、大事なことを落とさずに記述することができるように指導していく。 ・メモや友達の意見をもとに、報告レポートのまとめを書く活動を取り入れていく。 ・児童の興味や関心のあることをテーマに選び、自分の考えや思いを書く場を増やし、書くことへの苦手意識を軽減していく。
読むこと	平均正答率は県と比べて9.7ポイント高く、どの内容も県や市を上回っている。 ○説明文の段落の要点をとらえて読むことの正答率は高い。 ●文章を読んで感じたことや考えたことを発表するなど、文学作品の内容理解については、市や県の平均は上回っているものの、正答率が15.9ポイントと低い。短答式の活用問題に課題がある。	・文章を手掛かりに登場人物の気持ちや段落の要点を読み取る学習を行い、作品の要旨や主題に迫れるようにする。 ・比喩表現の特徴を捉える指導や主人公の心情の変化を表す会話文や言動、背景描写を見つける指導を取り入れていく。 ・文学作品を読んで、場面の様子や登場人物の気持ちなどについて、読み取ったことを発表し合う機会を設けていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は県と比べて10ポイント高く、どの内容も県や市を上回っている。 ○漢字の読み書き、国語辞典の使い方、指示語の役割の問題は、概ね理解している。 ●日常使われている簡単な単語のローマ字による書き方は、県や市の平均を上回っているが、正答率は61.4ポイントと多と比べて低い。	・個々の実態に応じた指導を工夫し、漢字の学習意欲を高め、漢字の習得を図っていく。 ・ローマ字を使う機会を増やし慣れ親しむようにする。 ・授業の中で積極的に国語辞典を使ったり、家庭学習でも活用を促したりして、国語辞典の使い方の習熟を図る。

宇都宮市立海道小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	81.3	74.5	74.6
	量と測定	63.6	62.4	60.4
	図形	78.4	69.9	70.1
	数量関係	72.3	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	68.5	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	80.8	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	79.5	77.1	76.0



★指導の工夫と改善

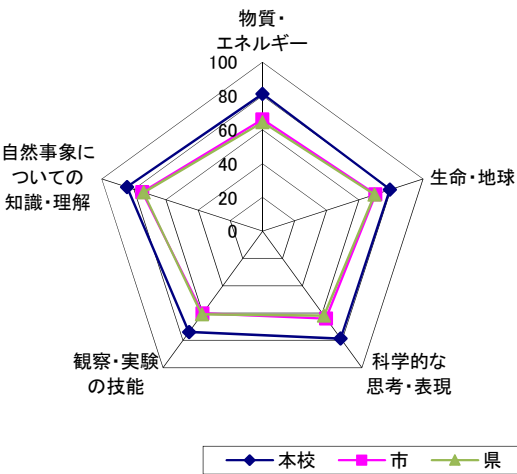
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は県と比べて6.7ポイント高い。 ○たし算・ひき算は県平均より10ポイント以上高く、学年全体として身に付いてきている。 ●かけ算は県平均より7.1ポイント高い結果だが、個人差が大きく、それがわり算の苦手意識につながっていると考えられる。 ●計算の順序の問題も個人差が大きい。	・朝の学習の時間や授業中に基本的な計算の反復練習を行い、更なる定着を目指す。 ・計算の順序や()を使った計算の工夫の指導を積極的に取り入れていく。
量と測定	平均正答率は県とほぼ同じで3.2ポイント上回った。 ○長さ・重さ、時こくと時間、ともに県平均より上回っている。 ●時こくと時間は県平均同様、本校も苦手意識をもっている児童が多い。それを活用する力を付けることに課題が見られる。	・数直線とはかりの目盛りを対応させ、目盛りを読み取る感覚を養わせていきたい。 ・時こくと時間に関しては、日常的に時間の感覚を意識させるようにする。各家庭においても協力を呼びかけ、連携を図りながら定着させていきたい。
図形	平均正答率は県と比べて8.3ポイント高い。 ○コンパスを用いての三角形を作図することができている。コンパスを使用して模様をかく作業など、児童が興味関心をもって取り組める課題設定を取り入れた結果だと考えられる。 ●「箱に入った同じ大きさのボールの半径の長さを選ぶ」問題では、県と比べて9.5ポイント高い結果だが、個人差が大きい。	・今後も児童が自ら学びたいと思う課題設定をする。 ・コンパスや定規などを使用して作図する際には、児童一人一人の様子を把握し、個に応じた指導をしながら理解が図れるようにする。
数量関係	平均正答率は県と比べて10ポイント高い。 ○ぼうグラフを読み取る力は身に付いている。 ●読み取った結果を言葉や式で説明する力に課題が見られる。ぼうグラフでは、県や市の平均より13ポイントも上回ったが、個人差が大きい。特に苦手意識をもった児童には、根拠をもって理由を説明できるようになることが必要だと考えられる。	・授業中、理由を加えて発表したり、他の意見に付け足したり、話し合う活動を取り入れながら指導する。

宇都宮市立海道小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	81.2	66.1	64.4
	生命・地球	79.4	70.4	69.8
観点	科学的な思考・表現	78.7	64.1	61.9
	観察・実験の技能	73.9	60.2	61.0
	自然事象についての知識・理解	84.3	74.8	74.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、県と比べて16.8ポイント高い。 ○全ての内容において正答率は10ポイント以上高く、特に物の重さと風やゴムの働き、電気の通り道についてはよく理解できている。学習プリントやフォローアップシートを使って反復練習を行ってきた成果であると考えられる。 ●光のせいしつ、電気の通り道については、定着度に二極化の傾向があり、課題が見られる。	・今後も授業や家庭学習で、学習プリントやフォローアップシートを活用することで、物質やエネルギーへの理解を図れるようにする。 ・複数枚の鏡を使って光の明るさや温かさの違いを比べる実験を丁寧に行い、その結果についても重要なキーワードを抑えて説明ができる力をつけられるように指導していきたい。 ・豆電球のつき方から回路の様子を推測することについては、電流の流れに着目して考えることで正しく推測できるようにする。
生命・地球	平均正答率は、県と比べて、9.6ポイント高い。 ○マリーゴールドのつくり、育つ順序の設問では、全員が正答であった。 ○身の回りに見られるいろいろな生き物から昆虫を選ぶ設問では、8割の児童が正答し、選んだ理由を記述することができた。 ●太陽と地面の様子について、方位磁石の適切な操作方法に課題が見られる。	・今後も学校の周りにある自然を活用して、昆虫や植物の飼育や観察を行い、理解が図れるようにする。 ・方位磁石の適切な操作については、児童一人一人に方位磁針を持たせ、実際に正しい方法で操作することで理解できるようにする。

宇都宮市立海道小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭での学習に関する7問の質問中ほとんどの質問において、県の平均を大幅に上回った。特に、家で学校の授業の予習をしている児童は20ポイント以上高かった。保護者と担任が連携して家庭学習を推進してきたことの成果であると考えられる。

○各教科に対する好きか嫌いかの質問において、「総合的な学習の時間」だけ県の平均を下回った。しかし、この教科に対しても県の平均を上回るほど、将来への必要性を感じていることが読み取れる。児童の興味や関心のある学習内容を取り入れることで個々のやる気を引き出していきたい。

○すべての教科において、授業の内容がよく分かるという肯定的な意見が、県の平均を上回っている。特に、国語と社会に関しては100ポイント、算数や理科は90ポイント以上である。

○家庭での生活においては、基本的な生活習慣について、ほとんどの項目で県の平均を上回っている。これからも家庭の協力を得ながら指導をする。

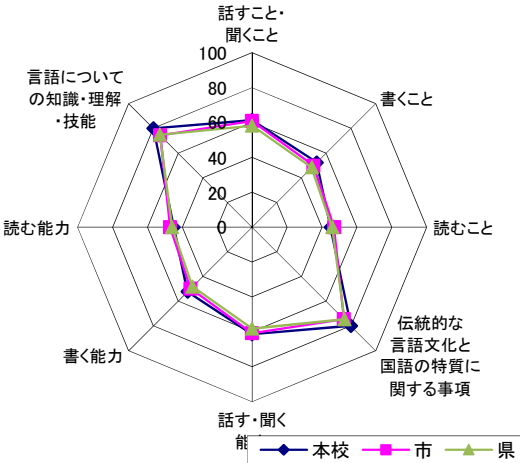
○自己有能感も県の平均よりも高く、前向きな学年であることが読み取れる。

●読書の量に関する質問においては、県の平均よりも低い。図書室を利用して、本に触れる機会を作ったり、図書室利用の時間を活用し、毎週2冊ずつ本を借り読書する習慣をつけさせていきたい。

宇都宮市立海道小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	61.3	60.8	58.1
	書くこと	52.3	49.8	48.3
	読むこと	45.0	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.0	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	61.3	60.8	58.1
	書く能力	52.3	49.8	48.3
	読む能力	45.0	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	80.0	74.4	74.8



★指導の工夫と改善

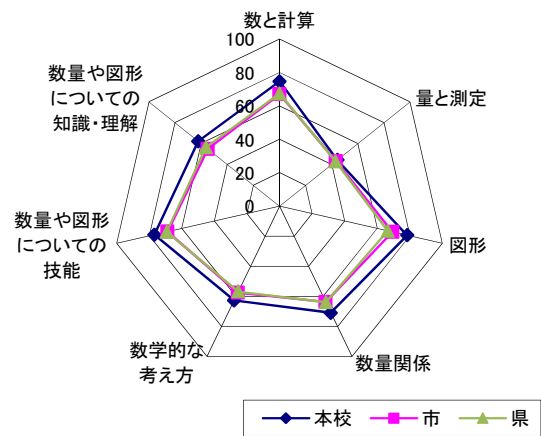
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は県と比べて3.2ポイント高く、県の平均正答率をやや上回っている。 ○話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する内容は、県の正答率より14.8ポイント高い。学級活動を中心にして各教科で話し合い活動を進めてきた成果であると考えられる。 ●話し合いの中で意見の共通点を考えて書いたり、相違点を整理して話したりする活動に個人差が見られる。	・今後も各教科において、ペア学習やグループ学習などの話し合い学習を意図的に取り入れ、自分の意見の根拠を明確にして話す習慣や、友達の意見の共通点や相違点を整理して聞いたりする習慣が身に付くようにする。
書くこと	平均正答率は県と比べて4ポイント高い。 ○掲示物の内容に合った資料を選び、目的に合った原稿を作成することができている。 ●インタビューの結果を基に必要な内容を整理して文章を書くことについては、個人差が見られる。	・今後もノート指導などを通して、自分の考えを明確に表現する機会を増やす。 ・自分が書いた文章を友達同士で読み合う活動や、実際に掲示物等を作成し合う活動を取り入れ、お互いに助言し合うことによって、より良い文章を書こうとする意欲を高めていく。
読むこと	平均正答率は県と比べて0.9ポイントとやや低い。 ○文章の段落の要点を捉えて要約する内容は県の正答率より高い。これは、説明文の学習の際、段落を要約する学習を進めてきた成果であると考えられる。 ●登場人物についての描写から心情を想像して読んだり、中心となる語や文を捉えて読んだりすることに課題が見られる。	・物語文において、登場人物の会話文や心情を捉える文章表現から、心情の変化を表す表現を見つける指導を場面ごとに繰り返し行う。 ・説明文において、文章全体の構成を考え、要旨をとらえることができるようにする。 ・発達段階に応じた本を読ませるなど、朝の学習時における読書の時間を充実させていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は県と比べて5.6ポイント高い。 ○漢字辞典の使い方がよくできている。音訓、部首や総画さくいんにおいて、辞典のそれぞれの引き方を指導してきた成果であると考えられる。 ●漢字の読みの正答率は高いが、漢字の書きや構成については個人差が見られる。	・今後も授業や家庭学習の中で漢字辞典を意図的に使用し、その使い方の定着を図れるようにする。 ・既習事項の漢字については、朝の学習や家庭学習で復習し、個別に指導するなどして、習熟が徹底するよう繰り返し指導する。

宇都宮市立海道小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.7	66.9	67.4
	量と測定	44.3	43.2	43.0
	図形	78.4	69.4	66.5
	数量関係	70.9	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	62.6	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	76.8	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	62.2	54.9	56.4



★指導の工夫と改善

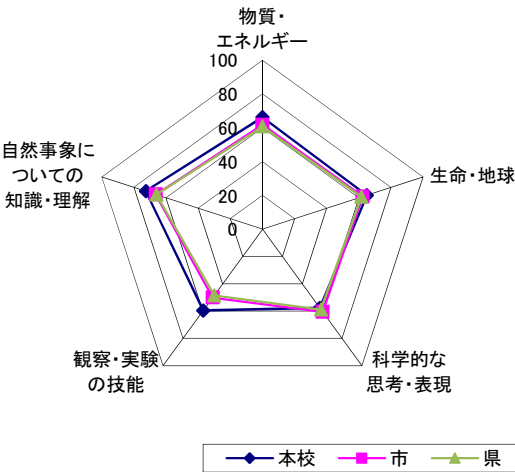
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は県と比べて7.3ポイント高い。 ○かけ算やわり算などの基本的な計算、概数での考え方や表し方、数量関係での倍数の計算ができています。朝の学習やフォローアップで復習をしてきた成果が表れている。 ●小数の足し算において、0.01をもとにした式に変換するとどんな式で表せるかを選ぶ問題では課題が見られる。	・今後も朝の学習やステップアップシート、家庭学習等を通して計算の基礎的な学力の定着を図る。 ・小数の式の変換では、0.01だけではなく0.1などの変化を加えながら理解できるようにする。「0.1のいくつ分」「0.01のいくつ分」などは少数のかけ算やわり算でも活用ができると他の関連にも意識させていく。
量と測定	平均正答率は県と比べて1.3ポイント高い。 ○図をもとに、180度より大きい角度の求め方を説明することができています。実際に分度器を使って180度より大きい角をかかせる演習を多く行ってきた成果が表れている。 ●1㎡と1cm ² の関係や、はがきのおよその面積を選ぶ問題には課題が見られる。特に1㎡は何cm ² なのかの理解の定着度が低い。	・今後も角度の書き方を実物投影機やデジタル教科書などを活用しながら丁寧に指導するようにする。 ・単位の変換についてももう一度学習プリントなどの活用を図りながら復習をする。㎡やcm ² だけではなく、5年生での新しい単位としてm ³ やcm ³ も増えたため、様々な単位変換ができるようにしていく。
図形	平均正答率は県と比べて4.5ポイント高い。 ○与えられた2辺の続きをかくて、平行四辺形を完成することができています。図形の性質を復習したり、実物投影機やデジタル教科書を活用しながら指導したりしてきた成果が表れている。	・今後もデジタル教科書や実物投影機を活用した図形のかき方の指導や、様々な図形の性質が理解できるようにする。
数量関係	平均正答率は県と比べて3ポイント高い。 ○ブロックの並べ方とブロックの個数の関係を比例の関係と捉え、式で表すことや二次元表の欄に当てはまる数を答えることができています。数量の関係を読み取る問題を繰り返し解く練習をしてきた成果が表れている。 ●式を表すときの説明や考え方を記述することに課題がある。	・今後も5年生での数量を求める学習との関連を意識させ、理解の定着を図るようにする。 ・自分の考えを小グループやペアによる話し合い学習を取り入れ、解き方や考え方を説明する時間を設けることで定着できるようにする。自分だけではなく相手に分かりやすく説明することをめあてとし取り組ませる。

宇都宮市立海道小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	66.2	61.7	60.7
	生命・地球	64.9	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	57.7	60.6	58.9
	観察・実験の技能	59.5	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	72.6	66.3	66.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は県と比べて5.5ポイント高い。 ○白く見える物の正体が「湯気」であることや、水が水蒸気になることを「蒸発」ということ、乾電池2個を直列につないだ時の回路図についての問題の正答率が高い。既習事項のプリント等を活用して理解を定着させたことの成果であると思われる。 ●空気の温度による体積の変化が水より大きいことや、光電池の働きと光の強さの関係から結果を推測する問題について、課題が見られる。	・今後も理科プラス、フォローアップシートやとちぎっ子の過去問に取り組み、学習内容の定着を図り、児童の理解を深められるように指導していく。 ・実験や観察を通して発見したことを、文章で表現できるようにするために、理科的な言語の定着を図れるよう指導をしていく。
生命・地球	平均正答率は県と比べて3.3ポイント高く、県の平均正答率をやや上回っている。 ○「生命」の領域では、人の身体に関わる設問や生き物の様子についての設問で正答率が高かった。児童にとって身近な生き物や身体について、内容をよく理解していることがわかる。NHKforSchoolや視聴覚教材を利用して学習してきた成果が表れている。 ●器具の使い方や実験結果からの考察について正答率が低かった。特に、実験結果の理由を説明する設問では正答率が低かった。	・今後も視聴覚教材を適切に使いながら、児童の学習が定着するように指導をしていく。 ・器具の使い方については、1人1実験を目標としながら、全員が器具を適切に使うことができるように指導をしていく。 ・実験結果の記述については、授業のまとめで単元の中で大切な言葉を押さえ、それを基に結果を分析したり考察したりしながら、自分の考えを表現できるよう指導をしていく。

宇都宮市立海道小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学力向上に関係の深い20問のうち、「家で、学校の授業の予習をしている」では県の肯定的回答割合が26.7%上回った。また「家で、学校の授業の復習をしている」の割合が県の肯定的回答割合を20.9%上回っており、家で学校の授業に備えて学習に取り組む意識が高く、実践できていることがうかがえる。保護者と担任が連携して、家庭学習を推進してきたことの成果であると考えられる。今後も宿題や自主学習を通して、家庭で授業に関わる自主的な学習に取り組む姿勢を育てていきたい。

○学力向上に関係の深い20問のうち「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の質問において、肯定的回答割合が県と比べて8.4%上回った。多くの教科でグループでの話し合い活動を取り入れたり、学力向上専門員のアドバイスをもとに算数の授業で、お互いの意見をつなぐ授業を取り入れた成果であると考えられる。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」という質問において、肯定的回答割合が10ポイントほど低くなっている。個々の活動の場を増やしたり、行事などで高学年として下学年をリードする機会を設け、自己有用感を持たせ意識を高めていきたい。

宇都宮市立海道小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業における話し合い活動の充実	授業の話し合い活動や学び合い活動において、自分の意見の根拠を明確にして話す習慣や、友達の意見と比べて聞く学習を進めるようにする。	4、5年生ともに、国語の話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する内容の正答率が、県の平均と比べて上回っている。また、「授業では友達との間で話し合う活動をよく行っている」の肯定的割合は、4年生が86.4%、5年生が86.5%で、県と比べて上回っている。
インターネットを活用した調べ学習の実践	各教科や総合的な学習において、自分の課題を調べたり解決したりするために、インターネットを活用する機会を増やす。	4、5年生ともに、「本やインターネットなどを利用して勉強に関する情報を得ている」の肯定的割合が、4年生が52.3%、5年生が64.9%と、県と比べて10%以上上回っている。また、昨年度に比べて、4年生は18.1%、5年生は27.4%と高くなっている。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	3・4年生は1日40分、5・6年生は1日60分以上を目標時間として行う。家庭学習は、宿題と自主学習とし、宿題は授業の復習内容のプリント類、自主学習は家庭学習ノートを活用して、毎日提出するように指導している。	4・5年生ともに、「家で学校の授業の復習をしている」に肯定的に回答した児童の割合は4年生が84.1%、5年生が89.2%と、県と比べてかなり高い。「家で授業の復習をしている」に肯定的に回答した児童の割合も高い。 「学校の授業時間以外に普段、1日当たりどのくらい勉強していますか」の質問に60分以上と回答した児童の割合はどちらも県の平均よりも上回り、4年生が52.2%、5年生は78.4%だった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
算数「量と測定」の領域における時刻と時間の問題や面積の単位の問題の正答率が、県の平均よりはやや高いが、4年生は63.6%、5年生が44.3%と低い。また、漢字の書きも個人差がみられる。	定着を図るための学習活動の充実	単元の導入時などに前学年までの内容を復習する機会を設定したり、家庭学習等で繰り返し取り組ませたりして、定着を図るようにする。 また、視聴覚教材を活用したり進んで課題解決に取り組んだりするような学習活動を工夫していく。